

自動車部品輸送のカリツー(愛知)

北東北の拠点新設

来年4月操業へ

金ヶ崎町六原

自動車部品輸送を手掛けるカリツー(本社愛知県安城市、加藤正則社長)が新設する岩手金ヶ崎物流センター―金ヶ崎町六原頭無、狐森地内―の工事安全祈願祭が7日、現地で開かれた。倉庫1棟を建て、来年4月から操業する予定。同社の100%子会社で、同町内に営業所を構えるカリツー東日本(本社同市、吉富裕亮社長)が自動車部品輸送での北東北の拠点として運営する。

県道沿いの民有地 床面積が約6600平方
2・3軒に新設する。 方位。総事業費は約13
倉庫は鉄筋平屋建てで、 億円となり、カリツー
東日本が土地を購入し、し、来年3月までに完
倉庫はカリツーが新築 工する。
する。今月8日に着工 東北地方に自動車関

連産業の集積が進む中、愛知県から届いた自動車関連部品を中継したり、近隣の取引企業の製造品を預かり他府県に輸送したりする。倉庫スペースの半分は、電子部品の保管に

適した定温設備を備える。需要が高まれば、残りの半分も定温倉庫に切り替える。敷地に



祈願祭で玉串をささげ無事完工を願うカリツーの加藤正則社長

余裕があり、受注量が増えれば倉庫の増設も検討する。

将来的には大型トラックの乗務員約20人、乗務員以外の従業員数人を地元採用する計画という。

祈願祭には、同社関係者や来賓ら30人余りが出席し、神事で無事完工を願った。加藤社長は「地域に密着し、物流を通して貢献していきたい」とあいさつ。高橋由一町長は祝辞で「町は今後の産業戦略の一つとして、新たな物流の集積地をこの地に設けたい」と話した。